

娘家族とも離れて、今は、夫婦水入らずの毎日です

大阪〈ゆうゆうの里〉 秋岡 稔様(85歳) 佐津美様(81歳) ご夫妻 平成27年 入居時夫婦入居

「教養を持たなあかん」が口癖

ご主人 戦後、「これからは建築の時代」と、角帽に憧れて大阪市内に入学。夜中の3時、4時まで一所懸命勉強して一級建築士となりました。就職先は宮大工として



「ゆうゆう祭」食事会の席も二人で一緒

監督として職人を束ねる仕事をし、常務になりました。仕事の中心は教育係でした。若い人には「教養を持たなあかん」、「専門誌を2冊は読め、新聞を読め」といつも言いきかせて来ました。また、「おい、大工」「おい、左官」と呼ばせず、名前で呼ぶように指導しました。彼らには口うるさい親父だったでしょうが、仕事への自信と誇りが持てるようになったと後から感謝されました。

子供がお父さんの顔を忘れてしまう

ご主人 妻は近所の幼馴染みです。少し年が離れていたの妹のような存在でした。何となくこの人と結婚するんだらうなという気持ちがありました。今から考えると周りがかつつけたのかなとも思いますが、現役時代の毎日は帰りが遅く迷惑をかけました。

奥様 家を守るのは私です。だから文句一つ言うこともなく必死でした。ところが主人を見て「変なおっちゃんがいる」と子供が言った時は本当にショックでした。子供がお父さんの顔を忘れないように努力してもらいたいと主人に話したものです。

ご主人 そう。それで、夏休みの家族旅行や会社のレクリエーションに誘ったね。子供は楽しくなかったようだが。

二人になってから、仲良く穏やかに

ご主人 仕事を辞めてからは、教室で絵手紙を習い始めたり、同じマンションに住む娘家族の孫の世話をしたりして過ごしていました。が、続けて病気に襲われ不安になって入居を決めました。娘や孫と離れることになりましたが、夫婦二人になって仲良くなったと感



じています。

奥様 娘には感謝している反面、親の心配をし過ぎるので、離れてやっとな二人という思いになりました。子供が、孫離れができず、責任からも解放された気分。

ご主人 今は奥さんがニコニコしているのを見るのが楽しい。一貫して妻には世話になった。今あるのは奥さんのおかげ。私は耳が遠くなり聞き取りにくいので、いつも助けてもらっていますが、いつも笑顔を保ちません。

奥様 主人が引つ込み思案な私を誘ってくれるので、相談しながら一緒にイベントやサークルに参加しています。

ご主人 二人でお互いに助け合いながら、元気でいつまでも厄介になるつもりです。